

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 2 回 定例委員会
日 時	平成26年2月10日 自 15時 至 17時10分
場 所	市役所第2庁舎1階会議室
出席委員	委員 長 上 原 毅 委員 佐 藤 郁 子 委員 佐 藤 守 委員 植 木 忠 夫 委員 和 野 幸 夫
欠 席 委 員	
会議録署名委員	和野 幸夫 教育長
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 田 中 亮 太
事務局職員	学 校 教 育 部 長 澤 口 良 彦 学 校 教 育 部 次 長 戸 村 真 規 ス ポ ー ツ 生 涯 学 習 部 次 長 木 戸 克 史 指 導 室 長 中 川 恵 介 第1学校給食共同調理場長 宮 嶋 和 久 生 涯 学 習 課 長 佐 々 木 弘 子 青 少 年 課 長 宮 嶋 紀 子 総 務 企 画 課 長 斉 藤 拓 也 総 務 企 画 課 総 務 係 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 総 務 係 主 事 田 中 亮 太
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（上原委員長）… 15時
2	会議録署名委員の指名（和野幸夫教育長）
3	会議録の承認
	（上原委員長） 第1回定例教育委員会（平成26年1月24日）の会議録について何か御質疑等ございますか。
	（一同「なし。」の声）
	－会議録どおり承認－
4	教育長の報告
	1月24日、第1回定例教育委員会議以降の行事などについて報告いたします。
	1月29日に胆振管内の教育長会議が室蘭で開催されております。この会議の中では、胆振教育局から今日的な教育行政の課題などについて説明、報告がありました。
	卒業式などの式典への学校の対応を含めた「国旗国歌に関する指導について」、全国学力・学習状況調査の結果を受けての「学力向上について」、この課題については今月開催する教育委員研修会でも報告される予定になっております。他には道教委が取り組もうとしている「平成26年度の予定事業について」、平成26年から始まる「教科書採択」の大まかな日程説明、蛍光灯の破裂事件を受けての「PCBの扱いについて」、以上の内容でありました。今後、委員会や学校などに通知され、取組を進めて行くことになるものであります。

次に2月4日に啓北中学校改築について住民説明会を実施しております。20名の出席をいただきました。何点か質問をいただきましたが、特に計画に大きく影響を与える御意見はございませんでした。
2月6日に定例校長会を開催し、私から「インフルエンザの現況と対応について」「卒業式のあり方について」「子ども会議の意義について」「啓北中学校の改築市民説明会について」「札幌市小学3年生監禁事件」「教育改革」についてお話をしております。また、平成26年度のALT配置計画などの指導室所管事項、生徒指導について、学校教育課所管事項について説明をしております。
次に、翌7日には5地区広域補導連絡協議会を本市で開催し、北広島市、恵庭市、千歳市、安平町から担当者にお集まりいただき研修講演では苫小牧警察署生活安全課蛭田係長から今日的な課題であるネットトラブルに関し「青少年のネットトラブル・犯罪被害の現状及びサイバーパトロールについて」として講演をいただいております。
早いもので3学期も残すところ1か月半であります。公立高校の推薦入試や私立高校の入試も始まっております。この時期のインフルエンザの罹患は、中学3年生であれば、高校受験の大切な時期であり、大変気を使うことでもあります。また、学校経営では、授業時数確保や学習進度に影響を与える学級閉鎖につながることから、こちらも大変気を使うところでもあります。保健所では2月4日に8箇所の医療機関での受診者が1日当たり10人を超え、11.88人（昨年38.88人）になったことから管内1市4町にインフルエンザ注意報を発令いたしました。昨年はこの時期警報が発令されたと記憶しております。また、本市の状況は4日現在で、延べ8校（小7校、中1校）で9学級が閉鎖しております。今のところ昨年ほどの広がりにはなっていませんが、薬に耐性のあるウィルスも報道されていることから油断せずに感染予防や授業時数確保の対策をしっかり立てるよう先の校長会で呼びかけているところです。
次に、大きく報道されておりました札幌市の小学3年生の監禁事件についてであります。無事に保護者のもとへ帰ることができ一安心をしているところでございますが、どこの学校でも起き得ることであり、通学時ではなく家庭からの外出時となると大変

難しい対応になると思います。私からも各学校に注意喚起を行いました。見ず知らずの人には安易に付いて行かないなど子ども自身の教育が家庭や学校でも必要です、地域は見守り体制の確立などの安全対策について、点検が求められていると考えております。

いよいよ13日には議員説明会が開催されます。教育委員会としましても補正予算、保健福祉部からの提案になりますが勤労青少年ホーム条例の廃止、ハイランドスポーツハウス条例の廃止、矢代ゲートボール場の和室使用料設定のための条例一部改正などの提案もあり、いよいよ議会モードといったところであります。

本日は、議会提案を前に、平成26年度の教育行政執行方針及び「安心安全前進」予算案、並びに提出議案などについて担当者から御説明いたしますのでよろしく御審議いただきたいと思っております。

(上原委員長) 何か御質問等ございますか。

(一同「なし。」の声)

5 議 案

第1号 苫小牧市美術館建設基金条例の廃止について

(生涯学習課長) — 「苫小牧市美術館建設基金条例の廃止について」の説明—

(上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。

(一同「なし。」の声)

(上原委員長) それではないようですので、原案どおり決定することよろしいでし

ようか。

(一同「はい。」の声)

－原案どおり決定－

第2号 事務の補助執行について

(青少年課長) －「事務の補助執行について」の説明－

(上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。それでは質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

－原案どおり決定－

第3号 平成26年度苫小牧市教育行政執行方針(案)について

(指導室長・スポーツ生涯学習部次長) －「平成26年度苫小牧市教育行政執行方針(案)」の説明－

(上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。

(佐藤守委員) 3ページ目の授業改善推進教師というものなのですが、これは各小中学校の学校からどのくらいの人数希望なのか、もし決まっていれば教えていただきたいということです。5ページで去年も実施したキッズタウンを今年には行わない

とは書かれていないのですが、キッズタウンはどうされるのかどうかですね。6
ページ目の緊急時対応の学校の体制というところと、4ページ目の特別支援の看護師
の資格を持つ介添人を配置するという、緊急時にこういった看護師さんなんかもこの
体制の中に入るのかですね。生涯学習の方は、何か今年はまだ目新しいのがないの
かなと。美術博物館は、子どものための美術展は現在開催されてるということでしょ
うか。その4点です。
(学校教育部長) 緊急時の対応と看護師の関係でございますけれども、この看護師の
ほうは、西小学校の支援学級の方に1名配置する予定であります。災害のような緊急
時対応というよりは、例えばアナフィラキシーの対応ということで、危険をもってい
るお子さんの緊急対応ということで、学校の対策としてということで考えております。
各学校に看護師資格を持つ介添人を配置するというのは、ちょっと人数的に難しいと
いうふうになります。それからキッズタウンのほうは、青少年課の事業ということで、
健康子ども部の事業になりますので、載せておりません。
(スポーツ生涯学習部次長) 美術博物館の事業でございますけれども、子どものため
の美術展は、今年度もやっております。来年度につきましては、新たな視点でやっ
てみる予定です。
(指導室長) 私の方から巡回指導教師に関する事項について御説明させていただきます
す。これにつきましては、市内全ての小中学校の配置というか先生方の応募数1校1
人というわけではなく、現段階では小学校国語が5名、同じく小学校算数が5名、中
学校国語3名、中学校数学3名、16名程度を予定しております。教育研究所で来
年度から設置します学力向上研究委員会の研究委員がこうした巡回指導教師に対する
働きかけを行いますので、ちょっと人数的にボリュームアップになると目が届かなく
なるということがございます。まずスタートしてこの15、16名のところから変え
ていこうというふうになっております。以上です。
(佐藤郁子委員) 3ページの小中学校間学習指導の連携の科目なのですが具体的に考
えていらっしゃるのかどうか。学力向上対策として現在試験の対象になっている科目

かどうか。それから、6ページの食物アレルギーに対する対応なんですが、緊急対応以前の問題として、休み明けのお土産を持って来ないように願います、お土産の中に卵だとか小麦だとかそばだとかそういうが入っていることがあるので、それを持って来ないようにというお願いの形で周知するというのがあったのですが、そのあたりのことも緊急対応の準備として配慮になるかならないのかどうか。

(指導室長) 小中学校間の学習指導の連携ですが、教科としては国語それから算数、数学というふうになります。全国学力学習状況調査等をやっておりますので、客観的なデータにより効果が分かる中で進めて参りますのでそういうところもあります。それから6ページの食物アレルギーに関するお土産だとかというような話ですけども、現段階では学校でそういうものを持ってくだとかそういう場面はございません。学校に食べ物を持ってくるのは原則決まりで禁じてますので、そういったことはないのです。

(植木委員) 確かな学力を育む教育ということで新しい取組をいくつかなさろうとされているのですが、外国語担当教員に対してオールイングリッシュによる研修講座を開設しうんぬんという指導力の向上とありますけれども、大変いいことだとは思いますが、このことを通して将来的な各学校小中に下ろすものがあるのかどうか。ただ教員に対してだけこれをやろうとされているのか。この辺の見通しはあるののかどうかということが1点とですね、それから、本市は各小中の教職員に対して研修講座をずっとやって、教員の学力向上で大変大きな成果を挙げているわけですが、その中に1昨年からやられている夜間講座、いわゆるミニ講座ですよね。この辺12回もやられるということなのだけれども、ここでの先生方も時間的な制限もあるので、どの程度の参加状況があるのかということと、その効果をどう押さえていらっしゃるのかというあたりをお聞かせいただきたい。

(指導室長) まず1点目の外国語担当教員に対するオールイングリッシュによる研修講座の開設ということで、今後の小学校もそうですが、中学校の教育の内容等につきましては、今の段階で教育委員会として学校現場に対してこうしてくれああしてくれ

<p>という打診の段階ではございません。したがって、国の動きの色々情報が入ってきますからもう少し注意深くそういった動向を見据えていきたいなというふうに考えてございますが、外国語担当の教員に対するオールイングリッシュの研修講座の実施は、現にALTが全ての中学校で一定期間子ども達に対する指導する過程で、やはりALTというのはあくまで指導助手ですからメインに立つ英語の教師がそれなりにやっぱり英語に対するスキルアップを図っていかねばならないと考えてございます。現状ではあまり十分の研修を設けていないので、ここの部分を拡充していきたいと考えてございます。それから研究所における研修講座の夜間講座の状況ですが、今年度については既に10回開催しまして既に終了いたしました。この講座の趣旨からして少人数で講師と受講者の意見交換等ができるような双方向でのやりとりができるという大きなねらいですので、人数的には多くても10名、少なければ6名くらいで実施いたしました。時間が17時15分からということですので、中学校の先生方や部活動だとか、何か学校行事に入らなければならない小学校の、準備等で忙しいですが何とか時間を作っていただいて、自主的に主体的に臨んでいるという姿勢の中で受講していただいています。来年度については12講座ですが、これは前期6講座、後期6講座ということで同じ講師の先生が2回担当することになって、継続して受講したいという方も中にはいらっしゃいますので、講座の項目的には5講座ないしは6講座というふうに考えてございます。以上です。</p>
<p>(上原委員長) 私の方から何点か質問。まず第1点はですね、執行方針の全体になるのですが、機構改革がありますよね。それで教育委員会の体制そのものが変わるわけですね。やっぱり平成26年度から変わるわけですから、そのことについては触れておく必要があるのではないかなと思うのですが、そこら辺の考え方をお聞かせいただきたいと思います。もし入れるとすれば具体的な項目ではなくて、例えばはじめとか結びの項の中でですね、触れておいた方がいいのではないかなという気がしますね。それから学校教育の充実の中の(2)番目、豊かな人間性と健康な体の育成というふうに書いてあります。平成25年度と比べてみたのですが、平成25年</p>

度はこの表現が単なる「体」ということではなくて「身体」という表現になっていま
すね。それを今年こういうふうに変えたのは何か意味があるのかどうか。執行方針の
中でも2ページでは「身体」という表現を使っています。5ページでは「体」という
表現なのですね。これはどちらかに統一したいなという気はしております。それから
ちょっと細かい点なのですけれども、4ページの「省エネ行動教育プログラム実践モ
デル校をさらに増やし」というふうに書いてありますが、より具体性を持たせるため
には、例えばここに何校とかですね具体的な数字を入れた方がより説得力があるの
ではないかなというふうに思っております。それと6ページの体力向上の欄で本市独自
の体力向上策を検討してまいりますというふうに書いてあります。ちょっと漠然とし
ていて分からないのですが、その向上策のイメージといいますかね、そういうものに
触れておいたほうがいいのではないかなという気がしております。それと同じように
7ページなのですが、同じ意味なんですけれども、学校図書館の学校図書館担当職員い
わゆる専任司書ですが、「配置についても具体的な検討を進め」というふうに書いて
ありますけれども、具体的なことにちょっと踏み込んでおいたほうがより理解が得ら
れるのではないかなというふうに思っております、その点についてお考えをお聞か
せいただきたいと思えます。

(和野教育長) 機構改革に係るところでお話しますね。全体的に市長の行政方針の中
で謳うものですから、教育執行方針の中で敢えて謳う必要はないかなということで、
強くは触れるつもりはないのですが。

(学校教育部長) 新年度予算の予算委員会の報告で全部新しい組織それから新しい予
算科目という形の今回議会運営ということで、機構改革については12月議会で言っ
ていただいているということ、本議会についてはもう全て新しい体制です。ちょっと
ここの部分については、26年度関連部分だけという載せ方になしているのです。

(上原委員長) 今の部分についてですが、教育行政執行方針ですからね、教育委員会
そのものですよね。教育委員会の体制が変わるわけですから、教育委員会としても意
気込みではないですがそういうものをですね、イメージとして示してみた方がいいよ

うな気がするのですが、各委員さんの御意見はどうか。
(佐藤守委員) 書いていただいた方が、他の父兄の方々からすると分かりづらいとい うようなこともあるのではないかなということがあるので、その都度こういうふう に変わりますよ、もっと良くなりますよということは書く必要があると思います。
(上原委員長) ちょっと事務局の方で検討してみてもらえますかね。そのままでもいい というのであればそれは構いませんので。
(指導室長) 体という御指摘いただいたのですが、実は、平成20年度に苫小牧市の 教育推進の10年というのが10年に1回定めているのですが、1つ目が確かな 学力を育む教育の充実というふうな言葉を使っていますし、2点目としましてはこの豊 かな人間性と健康な体という、この「体」を使っているのですね。ただし、冒頭で申 し上げました「健やかな身体」というのは文科省ではこの字を使っているのですけれ ども、苫小牧市の教育の重点で使っているものを基に教育行政を推進していくわけ ですから、そこは字の部分で若干ずれが生じてしまったかなと思うのですが、機構改革 に伴いまして平成26年度にはこの本市教育の重点の一部を変えていかなければなら ないというようなことが生じたので、そういった作業の中で少し考えていきたい というふうに思っています。
(学校教育部長) 前の議会で学校の専任司書について話してまして、嘱託での専任司 書の配置しかできないんだという話をさせてもらって、その中では勤務時間、勤務日 数、それから勤務体制で、複数校を1人が見るような形というのが第1とあって、配 置の人数ですとか、そういったところでどうするというので、答弁の中でもある程 度具体的な検討課題についてお答えしていますので、そのところではそれを具体的 に進んでますという言い方にしております。
(学校教育部次長) 省エネのプログラムの関係ですけれども、これにつきましては平 成23年から2校、4校、6校ということで、25年度は6校です。26年度に向け ては更に2校ということで考えてございまして、春にもう1度検討させていただき たいというふうに思っております。

(指導室長) 体育のところですね。実際来年4月に研究会を立ち上げるものですから、
どういった策を講じるかというのがまだちょっと見えない部分があるのです。そうし
た中で具体性が出せないかなとは思いますが、私どもが思っている中では小学
校時代に本市の子どもがやっぱり運動に親しむ習慣ですとか態度を身に付けていかな
ければならないということで、小学校の教育活動でどうやって運動を取り入れていく
かという、そうしたものを向上策として1つ苫小牧市の形として作っていきたいなど
いうふうに思っています。また、全国体力運動能力運動習慣調査の詳細分析はま
だ行っておりませんが、この分析によっては方向性が変わってくることも十分
考えられますので、そういった意味でこれ以上の具体性を中々示すのは難しいかなと
いうふうに思います。

(上原委員長) 他にございませんか。それでは質疑がないようですので原案どおり決
定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

－原案どおり決定－

第4号 平成25年度教育費補正予算について

(学校教育部長・スポーツ生涯学習部次長) －「平成25年度教育費補正予算につい
て」の説明－

(上原委員長) 質疑に付します。何かございませんか。質疑がないようですので原案
どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

－原案どおり決定－

第5号 平成26年度教育費予算について

(学校教育部長・スポーツ生涯学習部次長) －「平成26年度教育費予算について」
の説明－

(上原委員長) 何か質疑ございますか。私の方から1、2点。細かい点なのですが、耐震補強設計ということで28,000千円と計上してありますけれども、耐震化率のことなのですが、今年度の当初といたしますか確か今年度事業しないとしてですね、今年度当初の数字の中では苫小牧市の場合は全道平均より低かったのではなかったかと思えます。全道的にちょっと低かったのですが、今年の4月の時点で71、2%くらいだったと思うのですが、これが例えば新年度予算で、設計ですから工事までいかないのだろうと思うのですが、もしこれがそのようにされるとすれば、耐震化率がどのくらいになるわけですかね。その点を教えていただきたい。それから文化芸術振興事業費、今年は10,210千円計上されてますよね。去年は4,232千円なんです。約6,000千円も増えることですから、これもちょっと説明がありませんでしたので中身について教えていただきたいと思えます。

(学校教育部長) 耐震化に関してのお話でございます。26年度で耐震補強設計をして27年度工事をするというのが苫小牧市の計画でございます。27年度までに完了する予定です。これができて大体90%。残り10%につきましては啓北中ですか、改築に合わせた耐震化を図らなければならないものでございますので、そういう部分で約10%くらいあるということで、平成27年度までの計画としては一応90%というところでございます。

(スポーツ生涯学習部次長) 社会教育総務費の平成26年度の振興事業費でございま

すけれども、実は25年度の振興事業費と文化芸術振興費の下に推進事業費と2本立てになってございました。それでやっている事業が同じような事業というふうなことがございまして、一緒にした方よろしいということでございまして、実際にこうなりますと昨年は合わせて9,154千円でございます。

(上原委員長) 耐震化の件なんですけど、平成27年で完成地点では90%だということなんですけれども、全道的にみてどうなんですかね。おそらく道の方もある程度の予定とかを組んでいると思うのですが、具体的に教えていただきたい。

(学校教育部長) 全道全国の見込みはまだ当市には来てないのですけれども、当市ははかかなり低いところですよ。文科省からも、何とかできないかということなんですけれども、今申し上げましたように改築優先で、耐震化してすぐ改築しなければならないという部分の耐震化は、ちょっと無理でしょうということでは私達のほうの中でお話させていただいています。耐震診断がC判定のところであれば改築に合わせてやると補助が付きますよというのがあるのですけれども、耐震性の低い校舎でも耐震診断がB判定とかいうようなことがあって中々それを使えないというところで、拡大をした形で補助がもらえないかという相談をさせていただいているのですけれども、あくまでも今のところはC判定だけというよう形なものですから、そうせざるを得ない。27年度までやるにしてもぎちぎちのスケジュールの中で1年間でやれるというのはやってしまおうという判断です。それ以降は随時改築によって対応して、27年度で終了するのに90%と見込んでいます。今現在設計しております形で26年度ができますので、26年度の末ですと82.7%くらいで、今年度末は一応76.8%を予定しますね。76.8%から82.7%になって27年度末で90%というところまでで、全国的にはほぼそれで完了するのではないかなということなものですから、制度そのものがそれ以降継続する見込みがないという流れになっておりますので、耐震補強工事についてはこの制度を利用することで27年度にやっていかなければならない。28年度以降については他のそういう制度で改築等やっていくということになるものです。

(佐藤守委員) 幼稚園の維持管理費ということで、将来的にどういうふうにする予定
というのは全然まだ決まってないのでしょうかね。

(学校教育部長) 教育用の用途として使っていくという予定があれば、教育財産とし
てこのままですけれども、現在のところその教育用の用途として何かに使うというよ
うな予定はございません。本来であれば直ちに一般財産のほうに移管するという手続
を執るのですけれども、一般財産としてちょっと受け入れて管理を行うという状態でな
いのです。予算に関しては一般会計ですから、当面は売却の見込みが出るまでは教育の
方で管理するということになります。

(上原委員長) 他にどうですか。それでは他に質疑がないようですので原案どおり決
定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり決定—

第6号 教育委員会職員の処分について

(上原委員長) 議案第6号でございますが、人事案件等でございますので会議規則第
21条の規定によりまして秘密会としたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり決定—

6	協	議
		なし。
7	そ	の 他
		(1) 苫小牧市立図書館規則の一部改正（案）について
		(スポーツ生涯学習部次長) — 「苫小牧市立図書館規則の一部改正（案）について」 の説明—
		(上原委員長) 質疑に付します。
		(佐藤守委員) 時間とか開館日が増えて大変いいことだと思うのですが、他の 図書館とは違ってサンガーデンがあったり美術博物館が隣接したりしていますけれど も、そういう施設との休みとか時間帯とかについて何か打合せを今後やっていくのか どうか。それと、館内飲食ができるということで、これは僕も大賛成なのですがけれど も、予定としてはどのような場所を予定されているのか。その2点です。
		(スポーツ生涯学習部次長) 他の施設との関係でございますけれども、サンガーデン につきましては別の指定管理者が管理しておりまして、今回図書館についてこういう ふうに変えるというのは、指定管理者がこちらの想定以上の提案をしてきたことによ るものでございます。で、サンガーデンの指定管理者につきましては、図書館が広が ったからといって、すぐ広がるということにはならないと。それは、事業費とかもろ もろございますので、当面は図書館だけでというようなことでやるというふうを考え てございます。なお、施設がくっついているので、施設とかそういったことは、もち ろん協議してやるということにはなると思います。それから、飲食するスペースでご ざいますけれども、現在図書館の2階に事務室がございます。この部分については、

指定管理者が「このような空きスペースは必要ないですよ。」というふうな話をいただいたものですから、その部分について飲食可能なあるいはリラックスできるような提案でしたので、その部分に自動販売機とかを置くような形で、その中で飲食ができるスペースというような形になるというふうに考えてございます。

(佐藤守委員) 本を借りてせっかくいいサンガーデンがあって、そこで本を読んでもといういいパターンができるのに、その辺が指定管理者になったことによってぎくしゃくになってくるなると、他の図書館よりいい条件を持っているのに損だなと思いますので、指定管理者になってもですね、お互いに横のつながりを持ってやっていただきたいなと思います。

(上原委員長) 他にございますか。それでは他に質問等ないのでこれで質疑を終結いたします。

(2) 苫小牧市児童館条例施行規則の一部改正(案)について

(青少年課長) — 「苫小牧市児童館条例施行規則の一部改正(案)について」の説明—

(上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。それではないようですので質疑は終結いたしました。

(3) 平成26年度苫小牧市学校給食会予算(案)について

(第1学校給食共同調理場長) — 「平成26年度苫小牧市学校給食会予算(案)について」の説明—

(上原委員長) 何か御質問等ございますか。

(植木委員) 非常に細かいことですが、事務局費の中の作文コンクール景品代、

<p>景品という言葉ですけど、そのものずばりなんですけれども、入選者副賞費とかちょっと用語変えた方がいいのかなと思います。</p>
<p>(上原委員長) はい。答弁いいですかね。</p>
<p>(植木委員) はい。</p>
<p>(上原委員長) 質問いいですか。1つは、事務局費の中の7番集金費、確か以前の説明では過年度分に対してという説明があったような気がするのですが、そういう解釈でいいかどうか。去年の予算書を見ると過年度分と掲載してあるんですよね。もう1つは、消費税なのですが、今年度と前年度が同じというのはちょっと説明お願いしたいなと思いました。</p>
<p>(第1学校給食共同調理場長) 集金費につきましては、シルバー人材センターの方に過年度だけではなくて現年度につきましても集金の方はお願いしておりまして、直接集金に来てほしいという保護者の方がいらっしゃればシルバーさんをお願いして行っているという、過年度分に限らず現年度分も行っているというようなことです。それと、消費税の関係ですけれども、平成24年度の決算額で54万7千円ということで、そこまで金額は増えないということと8%に今度変わるということもありまして、ちょっとこの辺見えないものですから、現年度プラスの形で130万という形で、決算よりも多い額になっていますので、そういう形で計上させていただきました。</p>
<p>(上原委員長) 消費税のほうですけども、前年度の予算は5%で計上ですよ。新年度は今度8%になるわけですよ。それで同じでいいのかなんですよ。</p>
<p>(第1学校給食共同調理場長) 消費税は預かり税ということで、支出と収入の差で支払われているということなのですけども、本来であれば100%の収納があればそれを全部給食費で使うというふうになれば0という形になるかと思うのですけれども、実際は収納が悪いというか、実際は消費税を払うというような状況に今なっているようなのですけれども、先ほど言いましたように平成24年度決算で54万7千円の消費税の支出がございましたので、25年度もこのくらいというような形で考えておりますので、8%になったとしても予算的には同じでもいいじゃないかということで、</p>

同じと答えさせていただきました。

(上原委員長) 分かりました。他にありますか。よろしいですか。他に質問等ないようですので質疑を終結いたします。

7 委員会閉会の宣言 (上原委員長) … 17時10分